

都市計画×観光—「令和の都」と「国際観光都市」



岩屋城跡からの眺望

楠田 大蔵 福岡県太宰府市長

1. はじめに

本市は福岡市の南東約 16km に位置しており、かつては農業と太宰府天満宮門前町を中心とした商業が主要な産業であった。高度経済成長期以降、福岡都市圏の住宅都市化に伴い宅地開発や大学の立地などによる人口急増期を経て、現在は人口 73,164 人（令和 2 年国勢調査結果）の福岡都市圏ベッドタウンとして、人口は微増で推移している。

市内には九州自動車道、国道 3 号、福岡都市高速道路があり、九州自動車道太宰府 IC、福岡都市高速道路水城 IC が設置されている。西鉄天神大牟田線・太宰府線、JR 鹿児島本線が市民の重要な交通手段となっているほか、国内及び海外の玄関口である福岡空港にも近接しており、交通、気候、風土、景観に恵まれた住宅・文教都市でもある。

この地には世界と日本を結ぶ窓口、西日本を管轄する役所として「大宰府」が置かれ、古より我が国の政治・外交・防衛・交易・文化の要衝として発展してきた。そして天平の世大伴旅人により催された「梅花の宴」の情景を描いた万葉集から元号「令和」が生まれ、本市は「令和発祥の都」として改めて注目を受けた。日本遺産にも認定されている。

2. 「令和の都」太宰府らしい都市計画

本市では、自然、歴史、文化が調和する本市独自の住環境を生かしながら活力と賑わいのあるまちづくりを目指しており、令和の都として 1300 年を超える国際的、文化的都市としての悠久の歴史を感じることができ、太宰府の地域特性に応じた独自の「らしさ」づくりを進めている。

平成 7 年には「史跡と文化のまち」という地域特性を将来にわたっても担保するとともに、市民からも自然環境や景観に配慮するまちづくりを望む声が多かったことなどから、良好な市街地の居住環境を維持するため、住居系地域と一部の近隣商業地域に絶対 20m 高度地区を指定した。

また、平成 12 年には太宰府天満宮周辺の商業地域において、道路と沿道建物とでつくられる街並み、四王寺山・宝満山の山並みや天満宮の背景緑地とつくられる見通しを、落ち着いた風格をもった個性ある太宰府の「顔」として生かす為、絶対 15m 高度地区と門前町特別用途地区を指定した。

今後、観光核となる西鉄太宰府駅周辺地区、商業・業務核となる西鉄五条駅周辺地区に加え、人口増加の著しい西エリアに新たなまちづくりの拠点を形成し、西鉄二日市駅周辺地区をさらに活性化することにより、4 つの拠点を中心とした「令和の都」太宰府らしいまちづくりを目指す。

3. 国際観光都市として

本市に観光目的で来訪される方々の多くは、太宰府天満宮への参拝や参道周辺での飲食、天満宮に隣接する九州国立博物館への来館など、太宰府天満宮周辺エリアへの立ち寄りに偏った通過型観光であり、滞在時間が少なく観光消費のアップにあまりつながっていないという課題がある。

このことから、官民連携による古民家を改修した宿泊施設の設置や令和のストーリーを通じた周遊コースや体験型観光、地場グルメやみやげの開発といった観光メニューの充実などにより回遊性の向上を図り滞在型観光に転換することで、経済税収効果の向上につなげる試みを続けている。

宿泊施設の設置については、令和元年 10 月に西鉄や福銀、三井住友リースなどとの官民連携により古民家ホテル「ホテルカルティア太宰府」をオープンさせ、令和 3 年にも新たに 2 棟がオープンした。この建物が持つ太宰府らしい古民家ならではの居住空間はコロナ禍においても好評だった。

地場グルメやみやげについては、令和発祥の都太宰府「梅」プロジェクトと銘打ち、梅の植栽や収穫体験、地元農業高校や企業と連携した新商品開発や成分分析などによるさらなるブランディングを図ることで、「令和の都太宰府の梅」を活用したグルメやみやげを新たな名物に仕立て上げている。

周遊コースや体験型観光については、令和発祥の地となった大宰府政庁跡を核としたコースや日本遺産古代日本の「西の都」を基にしたコース、梅ヶ枝餅焼き体験など、太宰府ならではの歴史ストーリーに思いを馳せながら関連史跡や文化財を巡っていただく回遊型観光促進に取り組んでいる。

最盛期は 1000 万人の観光客を誇っていた国際観光都市太宰府も一時期は観光客が 96% 激減するなど厳しい状況が続きましたが、矢継ぎ早の意欲的なコロナ対策などにより観光産業も立ち直って来ました。コロナ禍を乗り越え、「令和の都」としてさらに羽ばたく太宰府にどうぞご期待下さい！



大宰府政庁跡で「令和」の人工字を完成